

### 6 - 3 関東・東海地域における最近の地殻傾斜変動 (2003年11月~2004年4月)

#### Recent Results of Continuous Crustal Tilt Observation in the Kanto-Tokai Area (November, 2003-April, 2004)

防災科学技術研究所

National Research Institute for Earth Science and Disaster Prevention

前報に引続き、2003年11月から2004年4月までの間の傾斜観測結果について報告する。第1図に各観測点の配置とそのステーションコードを示す。第2図に各観測点における傾斜の毎時値を並べて示す。第2図の配置は、概ね、第1図に示す観測点の西方から東方に向けての順番としている。第2図の下部には各図中の代表点における日降水量を示す。作図上のフルスケールは $20 \mu\text{rad}$ としている。掛川(KG2)は平成15年度に整備した観測点であるが、この観測点における記録を今回の報告に追加する。

KMTの南北成分は収録システムの障害によって記録が乱れているため、1月下旬以降の記録を除いた。ENZは3月下旬に計器を更新した。CHSは観測施設の修繕のため、2月下旬から4月初旬まで欠測となっている。

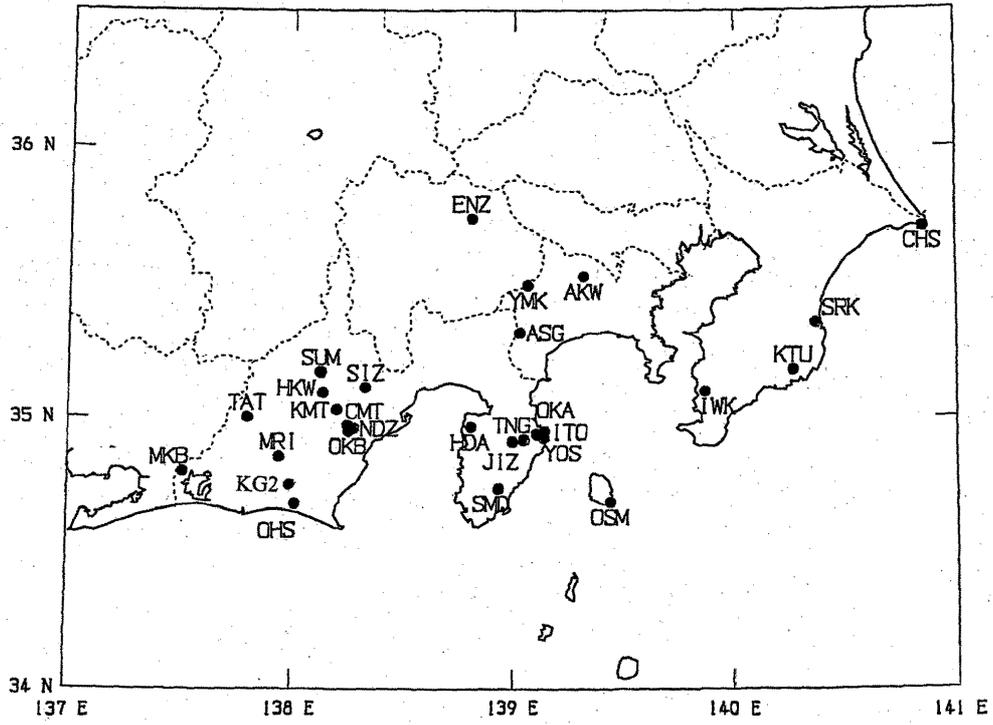
ITO, OKA, YOS, TNGにおいて4月24日から変化が生じているが、この変化はこの日から発生し始めた伊東市周辺における群発地震活動に伴うものである。この付近では2002年5月及び2003年6月にも今回と同規模の群発地震が発生し、それに伴う傾斜変化を捉えてきているが<sup>1)2)</sup>、今回の各観測点における傾斜の変化量及び変化の方向はこれらの活動時とほぼ同じである。同じような現象がほぼ1年の間隔で3回続いて生じたものと推察される。なお、この傾斜変化の詳細については本会報内で別途報告する。この他に、ITOにおいて3月下旬に変化が認められるが、この変化は計器の不調によるものである。

第3図にMKBにおける1994年1月1日から2004年6月1日までの間の傾斜記録を示す。2000年の中頃から生じている変化は、浜名湖の周辺で生じているスロースリップに伴うものであるが<sup>3)4)</sup>、2004年6月1日現在もこのスロースリップは進行中である。以上の他に、今期間中にはっきりとした異常な変化は認められなかった。

(大久保正・山本英二)

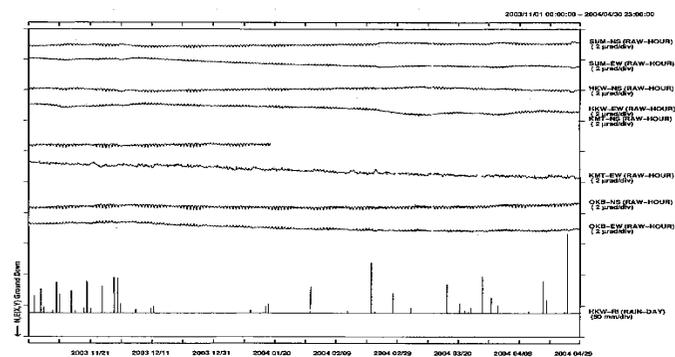
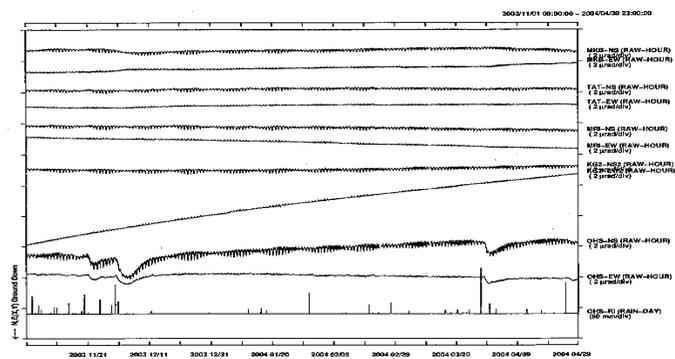
#### 参考文献

- 1) 山本英二・大久保正：2002年5月に再発した伊東市周辺における地震・火山活動，連絡会報，68(2002)，182-186。
- 2) 大久保正・山本英二：関東東海地域における最近の地殻傾斜変動 (2003年5月~2003年10月)，連絡会報，71(2004)，394-404。
- 3) 大久保正・山本英二：関東・東海地域における最近の傾斜変動 (2002年5月~2002年10月)，連絡会報，69(2003)，180-197。
- 4) 山本英二・松村正三・大久保正：傾斜及び地震観測で捉えた東海地域におけるスロースリップイベント - 繰り返し発生している可能性 - ，連絡会報，71(2004)，584-587。

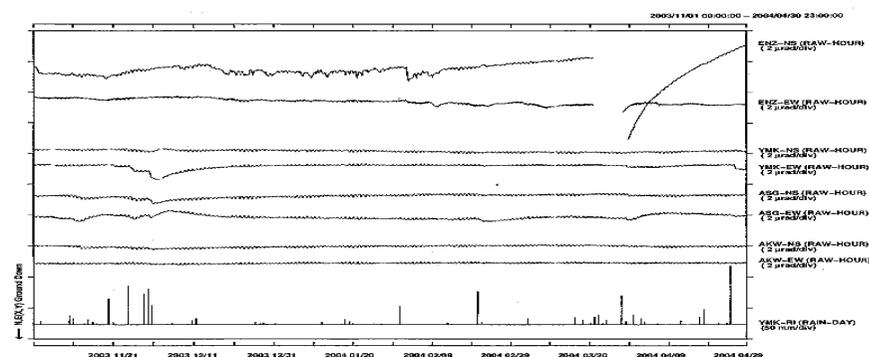
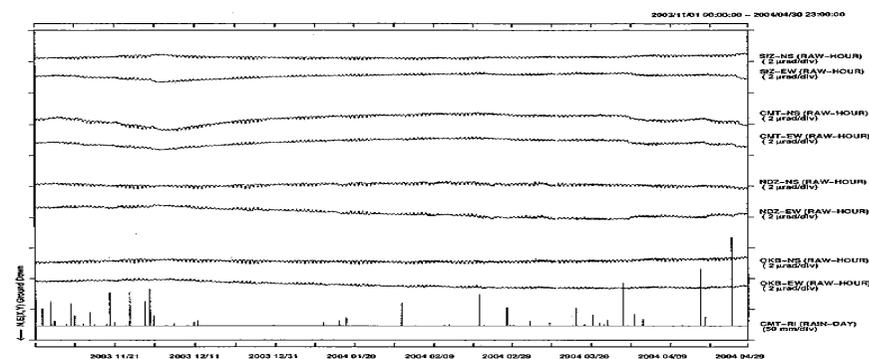


第 1 図 地殻傾斜観測点の分布

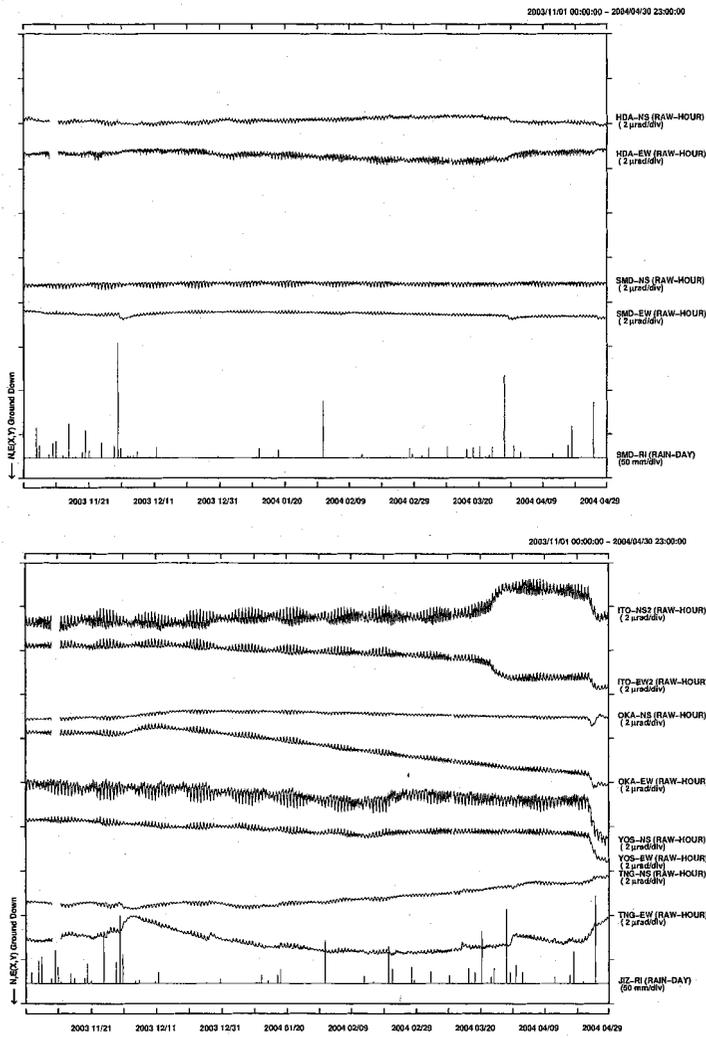
Fig.1 Distribution of crustal tilt observation stations.



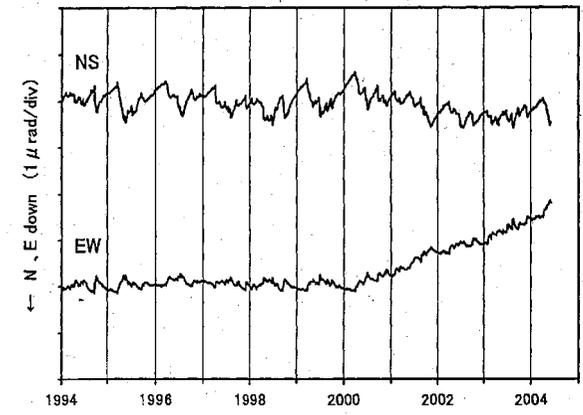
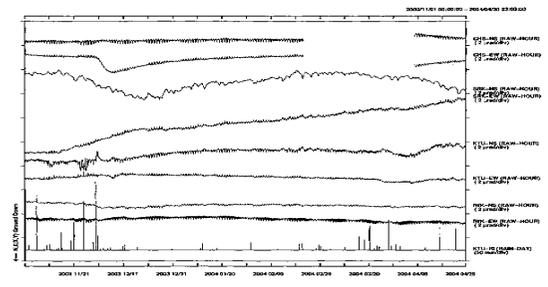
第2図 地殻傾斜の毎時値及  
 Fig.2 Hourly plots of crustal tilt



第2図 つづき  
 Fig.2 (Continued) .



第2図 つづき  
Fig.2 (Continued) .



第3図 1994年1月1日から2004年6月1日までの間のMKBにおける傾斜記録(1994年1月1日から生じている直線的な長期変化は取り除いてある)  
Fig.3 Detrended tilt record at MKB in the period from Jan. 1, 1994 to June 1, 2004.